opusdei.org

属人区長の書簡 (2013年9月)

教会の使徒継承について述べる中で、エチエバリア・栄光 る中で、エチリストの栄光 エル師は、キリストの栄光 る十字架と悲しみの聖母を記 視し、教会の使命に個人的ま 協力するよう信徒たちを励ま しています。

2013/09/08

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

南アメリカの諸国を旅した後でドイ ツからしたためます。アメリカで は、たくさんの皆さんの兄弟姉妹、 そしてその他オプス・デイの精神に 参与している多くの人たちと集う喜 びを味わいました。また、ワールド ユースデイでも、ベネディクト十六 世が言われたように、今もいつも 若々しく美しい教会を目の当たりに したのですから神に感謝しましょ う。この数週間、私の傍近く霊的に 同伴してくれたように、今は使徒職 のふんだんな実りのために続けて同 伴してください。

ここ数ヶ月、クレドで宣言している 数々の信条を熟考しながら、教たち 美しさを考察しています。私たち は、洗礼によってキリストの牧一は 招き入れられ、その羊の群れの一員 となりました。主なる善き牧おらと 一人ひとりをずっと見守っもごと ます。特に諸秘蹟、何よりを を通してもたらされる恩恵によって 育んでくださいます。こうして私たちはしだいにキリストとの一致を深め、その神秘体の活きいきとした肢体となり、慰め主によって生かされた霊的神殿の生きた石になります。そして主は、ゆるしの秘跡によって罪を赦し、内的戦いに勝つための新たな力を与えてくださいます。

このことを8日の聖母の誕生日に先 立つ日々に考察することを嬉しく思 います。と言うのもマリアにおい て、私たちに招かれている全ての理 想が実現されているからです。事 実、汚れなき御宿りの時から、聖な るおとめ一あらゆる罪を免れ、恩恵 に満たされた一は、神なる御父の愛 する娘、聖霊の生ける神殿であり、 人となられたみことばの御母となる べく予定されておられたのです。子 としての愛情を持ってこの日の祝詞 を準備し、一聖母のよい子どもにな ることを望んでいる私たちですから 一子としての愛情、そして御子イエ

スに対する無条件の忠実を贈り物に しましょう。始まったばかりの今 月、他にもある聖母の記念日には、 聖母にしっかりとつかまって歩むよ うにしましょう。そして、いつも。

また、今月祝われる他の祝日に注目したいと思います。14日の十字架の称賛、その翌日の十字架の許にいる聖母の祝日。この日は、愛するドン・アルバロが創立者の最初の後継者としてオプス・デイを率いるために選ばれた記念日でもあります。

この二つの祝日は教会と密接に結び ついています。教会は、十字架上で 開かれたキリストの御脇腹からは、 の救済のため、神のお望みにない の救済のエバ」とはます。 当まれます。 当まれます。 公当に協力されます。 公当に協力されます。 公当に協力されます。 公当に協力されます。 会期の閉会時、パウロされたの をもため、第二バパウロされたの のある会期の閉会時、と宣言されたの との母」と宣言されたの でした。「つまり、マリアをもっとをもってのする母と呼ぶ全であると。そであるとの母である名称との母も甘美な名の最も甘美な名がらいるとめているよう願います。」[i] 創立者が返れるよう願います。」[i] 創立者が返れるよう願います。」によりがあるとない。というによりにないます。というによりにない。

マリアには、教会の核心をなす特徴、つまり、神と人々との固い一致、傑出した聖性、子どもたちのあらゆる必要事に寄り添う普遍性、てして使徒継承が、燦然と輝き出て、「教会は、恒久的な土台、なわち、子羊の十二使徒(黙示録21,14参照)の上に建てられています。教会は破壊されないものです(マタイ16,18参照)。神は真理を誤りなく保つように教会を支えておられま

す。それぞれの後継者である教皇と 司教団のうちにいるペトロと使徒た ちとを通して、キリストが教会を治 めておられます」[ii] と教会が宣言 しているこの信条を、この数週間思 い起こしてもらうと心から嬉しく思 います。

聖母にぬきんでているのが教会のこ の面です。事実、聖母は、ガリレア のカナで主の最初の弟子たちが主を 信じるように助け、彼らに後ほども たらされる使徒職への召し出しを準 備されました「iii」。イエスは十字架 上から御母に、愛する弟子を、そし て彼において全ての弟子たちを託さ れました[iv]。聖マリアはこの役目 に忠実で、聖霊降臨を待つ使徒たち と共にお留まりになりました[v]。慰 め主の来臨の後、最初の福音官教に 出かける彼らをどのように支えられ たかを知るのは実に感動的です。古 代教会の幾人かの証人たちが書いて います。「聖母は、単に聖なる使徒

たちとその他の人たちを、忍耐強 く、そして試練を耐え忍ぶよう励ま されただけではなく、彼らのあらゆ る労苦に連帯し、宣教を支え、窮乏 や拷問に遭ったり、獄中にいたりす る主の弟子たちと霊的に一致してお られたのです。| [vi] 今は、天国か らより効果的に全世界における教会 の使徒職を後押しされ、司牧者と信 徒がおのおの頂いた賜や恩恵に従っ てイエス・キリストを証しし、「異邦 人や王たち、またイスラエルの子ら に向かった」[vii] 聖パウロのよう に、人間的神的召し出しによって置 かれたところで、その御名を広める よう力づけていらっしゃいます。

カトリック教会のカテキズムはこう 教えます。「教会全体は、ペトロと 使徒たちの後継者を

通して信仰と生活とがその起源とつながっているという意味で、使徒的です。また、教会全体が全世界に

『遣わされている』という意味で、 使徒的です。教会の全ての成員は、 それぞれが異なった方法でこの使命 に参加します。| [viii] ですから誰 も、ご昇天前にイエス・キリストから 十二使徒が受け取った役目は、単に 司牧者と修道者だけに関わることだ と考えてはならないのです。「教会 にはいろいろな種類の役務がありま すが、その目的は一つ、つまり人々 の聖化です。そしてこの聖化の仕事 には、洗礼と堅信の秘跡で受けた印 章によって、全ての信者が何らかの 形で参加します。私たち全員がキリ ストの使命であるこの教会の使命に 対して責任を感じていなければなり ません。人々の救いを熱心に望まな い人、キリストの御名と教えが知ら れ愛されるように全力を挙げて努力 しない人は、教会の使徒継承という 特徴を理解できないでしょう。| [ix]

教皇フランシスコは、就任されたば かりの頃、全ての信者にこの喜ばし い役目を思い起こさせることに専念 され、あの手この手で自問するよう 勧められました。「わたしたちは自 分が教会であることをどのように生 きているでしょうか。私たちは生き た石となっているでしょうか。それ とも、いわば疲れた石、退屈した 石、無関心な石となっていないで しょうか。疲れた、退屈した、無関 心なキリスト信者は、見苦しくはな いでしょうか。このようなキリスト 信者になってはいけません。キリス ト信者は生き生きとしていなければ なりません。教会という神の民の一 部であることの素晴らしさを生きな ければなりません。わたしたちは、 聖霊のわざに心を開いているでしょ うか。(・・・) それとも、『わたしに はやることがたくさんあります。そ れがわたしの仕事でしょうか』と 言って、自分のうちに閉じこもって いないでしょうか。」[x] 先だって

は、リオデジャネイロにおけるワー ルドユースデイの閉会において、特 に若者たちに同じことを繰り返し呼 びかけられ、メッセージを「行きな さい、恐れるな、仕えなさい」と三 語にまとめ、こう説明なさいまし た。「しかし、注意しなければなら ないことがあります。イエスは『望 むなら、時間があるなら』とはいわ ず、むしろ『行って、全ての民を弟 子にしなさい』といわれました。信 仰体験を分かち合いなさい。信仰を 証ししなさい。福音を述べ伝えなさ い一これが、主があなたがたを含め た全教会に示した命令です。しか し、この命令は、支配欲や権力欲か ら生じたのではなく、愛の力から生 じました。まずイエスがわたしたち のただ中に来て(・・・)全てを与え、ご 自分のいのちをささげたことから生 じました。それはわたしたちを救う ためです。| [xi]

生ぬるく受身的なキリスト者は「キ リストが私たちに期待しておられる ことが分からずじまいと言えます。 自分のことだけを考えて人々の救い について何も考えないキリスト者 は、イエスの聖心で人々を愛してい るとは言えないのです。使徒職と は、位階制に属する人や司祭や修道 者だけの使命ではありません。全て の人は、模範と言葉で、永遠の生命 に至るこの恩寵の流れを伝える道具 になるよう、主の招きを受けていま す。」[xii] 聖ホセマリアは、オプ ス・デイ創立当初から、教会が神か ら受け取った使命の非常に重要な側 面としてそのことを教えました。そ のメッセージは、全ての人のためで すが、より具体的には一般信徒に向 けられたものです。つまり、神から の召し出しによって、この世の現実 を神のみ国の発展のための手段に変 えようと努めつつ過ごしている男女 に向けられたものです。1930年代に こう述べています。「わが子よ、あ

なたはただ何かよい目的を果たすために、人々と一緒になったのではない。それだけでもすこぶる立派なことにはちがいないが、それでも大したことではない。あなたは、キリストの命令を果たす使徒なのだ。」
[xiii]

信者が教会の使徒的使命に参与して 実りをもたらすために必要な基本的 条件が二つあります。慰め主の働き かけに素直であることと教皇と教座 に忠実な司教と緊密に一致している ことです。この二つは絶対に欠かせ ないものです。

パウロ六世が述べられたように「福音宣教を行なう主人公は」[xiv] 聖霊です。私たち個人の生活においてまた全教会において使徒職を推進するのは聖霊なのです。福音を述べ伝えることは「実に教会自身の本性に深く根ざした最も特有の恵みであり、召命です。教会はまさに福音を述べ

伝えるために存在しています。」 [xv]

一人ひとりのキリスト信者も同じこ とで、私たちは他の多くの人たちを 引き連れて天国に行くために存在し ているのです。私たち皆に任された 「新たな福音宣教」の仕事を進展さ せるための光と力をお願いするため 聖霊により頼まなければなりませ ん。「福音宣教を行なうために必要 なのは、神の霊が示す可能性にあら ためて心を開くことです。聖霊がわ たしたちに何を求めるか、わたした ちをどこへ導くかについて、恐れて はなりません。聖霊に身を委ねてく だい。聖霊は、わたしたちが信仰を 生き、あかしすることを可能にし、 また、わたしたちが出会う人々の心 を照らしてくださいます。| [xvi]

イエスについての知識やイエスに対する愛を伝え広めることは何と大きな喜びでしょう。ありうる困難に歩

第二の条件は教皇様と司教様方との 一致です。種々のご意向と祈願に一 致して祈ることです。いつもこのこ とを繰り返すのは、ペトロと共にペ トロの下で、司教団と一致している ことによってのみ教会への奉什が実 りあるものになるからです。創立者 が述べています。「ペトロとの一致 すなわち教皇との一致を繊細な心で 忠実に保てば、この使徒継承という 特徴を全ての人の目に、より明らか にするのに貢献できます。ローマ教 皇のうちにキリストを見ているから

です。祈りの中でキリストに接すれは、時には理解に苦しむ出来事や嘆きと悲しみを誘う出来事が起こっても、聖霊の働きを識別できる澄み切った眼で歩みを続けることでしょう。」[xvii]

十字架上の主を愛することによって 私たちは、不信感や複雑な考えなし に、この世をキリストに引き戻すた めの歩みを続ける強さを持つことが できます。栄光の聖十字架の称賛の 祝日は、正にこのことを示していま す。栄光への道は、主がお許しにな る身体的内的な障害を進んで喜んで 受け入れることです。創立者はper crucem ad lucem. 十字架を通って光 へ、と言っておられました。私たち にはいつもマリアが付き添っておら れるのですから、十字架があっても 喜びに満ちています。木には一私た ちの聖堂の木の十字架のように一た とえ時にはとげがあるとしても、バ ラが花開きます。こうして、私たち

の卑小さにも関わらず、人々の救霊 のためにイエスと協力する喜びを特 別に味わうことができるのです。

そしてオプス・デイの病気の人と全ての病人のために祈り続けて下さい。彼らが主の十字架に一致することができるようと。こうしてのみ、全ての人のためのキリストの贖いのみわざがもたらされるよう、より集

中的に参与することができるのです。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ゾーリンゲン、2013年9月1日

[i] パウロ六世、1964年11月21日公 会議第三会期閉会時の講話。

[ii] 『カトリック教会のカテキズム』869番。

[iii] ヨハネ2,11;マタイ3,13-15参照。

[iv]ヨハネ19,26-27参照。

[v] 使徒言行録1,12-14参照。

[vi] 聖マキシムス〔証聖者〕、『マリアの生涯』VIII,97(第一千年期のマ

リアについての証言)ローマ1989, 第 二巻260ページ)。

[vii] 使徒言行録9,15。

<u>[viii]</u> 『カトリック教会のカテキズ ム』863番。

[ix] 聖ホセマリア、1972年6月4日説 教『教会を愛する』32-33ページ。

[x] 教皇フランシスコ、2013年6月26 日一般謁見講話。

[xi] 教皇フランシスコ、2013年7月 28日リオデジャネイロにおけるワー ルドユースデイ閉会ミサでの説教。

[xii] 聖ホセマリア、1972年6月4日説 教『教会を愛する』33ページ。

[xiii] 聖ホセマリア、『道』942番。

[xiv] パウロ六世、1975年8月8日使 徒的勧告『福音宣教』75番。 [xv] 同上 14番。

[xvi] 教皇フランシスコ、2013年5月 22日一般謁見の講話。

[xvii] 聖ホセマリア、1972年6月4日 説教『教会を愛する』31ページ。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2013nian-9yue/ (2025/12/16)